

パспа文字の世界

— 1 回目 —

《資料との出会い》

午前の講義が終わった。校庭を横切り、向かいの食堂へ向かう。



・・・食堂のテーブル。顔見知りの学生たち。安井、食事が終わり立ち上がる・・・

佐藤久美：先生。これ、お忘れです。コインのようですが・・・。

安井教授：ありがとう。大事なものを失くすところでした。

佐藤久美：文字のようなものがありますが、何でしょうか？

安井教授：今日の講義でネタでして、パспа文字が書かれた貨幣です。

山村健一：パспа文字・・・ですか。たしかモンゴルのフビライの時の文字ですね。高校の教科書で習ったような。でも、安井先生は漢文がご専門だったのではないのですか？

安井教授：研究室にパспа文字が書かれた資料が幾つかありまして、そこに何が書かれているか読みたいものだと取り組んでいるところです。

佐藤久美：なんだか面白そうですね。こんど、研究室に伺ってもよろしいでしょうか。

安井教授：いいですよ。そうですね・・・、金曜の午後なら研究室にいます。

《パスパ文字の背景》

・・・金曜の午後、安井教授の研究室でお茶をのみながら・・・

安井教授：これが先日のコインです。危うく失くすところでしたね。

佐藤久美：あらためて手にとるとなかなか迫力ありますね。なんと書いてあるのでしょうか？



安井教授：「大元通宝 (ダゲツツウホウ)」と書いてあります。パスパ文字はラテン文字のような表音文字でして、比較的簡単に様々な言葉を綴ることができます。これは中国語の「大元通宝」という音をパスパ文字で綴ったものです。ですから、文字はパスパ文字で、言葉は中国語ということになります。

佐藤久美：ところでパスパ文字というのは知っているのですが、「パスパ」ってなんですか？

安井教授：山村君、そこに高校の世界史の教科書があります。パスパ文字とその背景が書いてあるはずですから読んでみてください。教科書には研究の最先端は載っていませんが、ふつうに行われている説が出ていますので、いろいろ考える際の参考となります。

山村健一：三省堂の『世界史〔B〕』、懐かしいですね。これによりますと、モンゴル高原では1206年にモンゴル系・トルコ系の諸族を統一したモンゴル帝国が成立したとあります。その後、1259年に高麗を服属させるころまでに、アジアからヨーロッパにまたがる大帝國に発展したということです。



その過程で、モンゴル帝国は幾つかのハン国にわかれました。支配地域を単独の組織によって統治するのはむずかしかつたようです。ロシアのキプチャク=ハン国（1243-1502）、中央アジアのチャガタ

イ=ハン国（1227-14C 後半）、西北モンゴルのオゴタイ=ハン国（1224?-1310）、イラン方面のイル=ハン国（1258-1411）です。

その後、チンギス=ハンの孫にあたるフビライ（在位 1260-1294）が第五

代の大ハンに即位するのですが、そのとき即位に反対する反乱がおこったようです。抗争ののちに各ハン国は独立し、帝国は事実上分裂したとあります。

フビライ＝ハンは即位後、首都をカラコルムから大都（現在の北京）に移し、国号を元（1271-1368）としました。1279年には中国の南にあった南宋を滅ぼし、全中国を支配することになったとあります。

佐藤久美：パスパ文字のことは出てこないの？

山村健一：「元代の文化」という見出しのなかにあるね。公用語にモンゴル語を用い、公文書にパスパ文字を使ったと書いてある。そのパスパ文字だけど、脚注によると、「フビライ＝ハンがチベット仏教（ラマ教）の僧パスパに命じてつくらせたもので、しだいに使われなくなった」とある。

佐藤久美：ずいぶんアッサリした記述ね。でもパスパが作った文字だからパスパ文字と呼ぶ、ということは分かったわ。

ところで安井先生。フビライはどうして新しい文字を作ったのでしょうか？ それまでにモンゴルには文字はなかったのですか。それに、公用語にモンゴル語を用いたとありますが、パスパ文字を使って書いた言葉はモンゴル語なのでしょうか。先ほどの貨幣のパスパ文字は中国語を書いたものでしたが・・・。

安井教授：いろいろ疑問があるようですね。中国の歴史書に『元史』というものがありまして、もっともこれは元が滅びた後、明代に書かれたものですが、そこにパスパ文字を作った事情がでています。日本語に訳したものがあるので、それで確認してみましょくか。

それとも、ややこしい話はよしましょくか？

佐藤久美：資料の実物を見せていただこうと伺っただけなのですが、せっかくですから少し勉強してみたい気もします。山村君はどう？

山村健一：ぼくも異存はないよ。

・・・安井教授、訳文のコピーにはする・・・

〈『元史』の釈老伝をめぐって〉

安井教授：パスパ文字の背景ですが、『元史』列伝の卷第八十九「釈老」を見るとだいたい分かります。「釈老」の研究として、ここに『元史釈老伝の研究』（京都：朋友書店、昭和五十三年・1978年発行。野上俊静著）という本があります。これは完備された訳文と注釈を含んでいてとても便利です。少し長くなりますが関係箇所の訳文をそのまま紹介しましょう。注については割愛しました。

#

帝師八思巴(パspa)は吐蕃の薩斯迦(サヤ)の人。姓は款(ク)氏である。伝えるところによれば、先祖朶栗赤(ダリチ)が仏法をもつて国王を補佐し、西海に覇者たらしめてより十

余世の後裔という。八思巴は七歳のときすでに経文数十万言を暗誦し、その大義に約通することができた。国の人々は彼を聖童と号した。そのゆえに、名づけて八思巴というのである。やや長じて五明の学問にすぐれたので、また称して班彌怛(パミタ)といった。

癸丑(一二五三)の歳、八思巴は年十五歳で即位前の世祖に潜邸で謁見した。世祖は語り合つて大いに悦び、八思巴は日毎に親礼せられた。中統元年(一二六〇)世祖が即位すると、八思巴を尊崇して国師となし、玉印を授けた。世祖は八思巴に蒙古新字の制作を命じた。新字が完成し、八思巴はこれを上進した。その新字は僅かに千余字。その母字四十一字である。それが相互に關紐しあつて別の字を形成するには韻関の法があり、二合・三合・四合と重ねて結び、また別の字を形成するには語韻の法がある。そしてその大要は、六書の諧声の法をもつて宗とする。

至元六年(一二六九)詔を下して蒙古新字を天下に公布した。その詔には次のようにいう。「朕惟(おも)うに、字は言を書し、言は事を紀す。これ古今の通制なり。我が国家朔方に基礎を確立してより、その風俗は簡潔古雅をとうとび、いまだ文字の制作にいとまあらず。およそ施用の文字は、漢字および畏吾(ウイグル)字を用い、よつて本朝の言語を表達しきたる。これを遼・金および遠方の諸国に考うるに、おおむね各国文字を有す。いま我が国の文治ようやく興り、しかも字書を缺くは、一代の制においてまことに不備なりとせり。故に特に国師八思巴に命じて始めて蒙古新字を制作せしめ、一切の文字を訳写せしむ。順言達事を期せんとするのみ。自今以往、璽書の發布するものみな蒙古新字を用い、かさねて各々その国字をもつてこれにそえよ。」かくて称号を升せて八思巴を大宝法王といい、さらに玉印を賜わつた。

#

..... 釈老伝のコピーを配りながら.....

安井教授：いきなりこれを読むのはつらいでしょうね。君たちどうですか、もう少し深入りしてみようということでしたら、毎週この時間に集まることにしますが.....

佐藤・山村：はい、それでけっこうです。

安井教授：それでは、次回までにこのコピーに目を通しておいってください。

***** 2回目は次のページへ*****

— 2回目 —

・・・金曜の午後。安井、お茶を入れる・・・

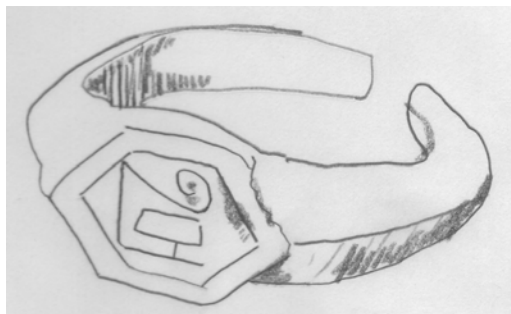
安井教授：これは釈老伝の冒頭部分です。中統元年（1260）、フビライ（世祖）が即位したとき、チベット（吐蕃）僧パスパに国師の称号を与え、蒙古の新しい文字の作成を命じたとありますね。文字が出来上がった正確な時期はわからないのですが、とにかく文字ができて、至元六年（1269）に全帝国に頒布するよう詔がだされたということはわかります。フビライが国号を元に改めたのが1271年ですから、その二年前にパスパ文字が頒布されたことになりませぬ。

佐藤久美：モンゴル軍の一回目の日本侵入（文永の役）は、たしか1274年ですから、その五年前にパスパ文字が公布されていたというわけですね。そうしますと、九州には当時のパスパ文字の資料があるかもしれませんね。

中統元年（1260）：フビライ即位
至元六年（1269）：パスパ文字を国字として公布
至元八年（1271）：国号を大元とする
至元十一年（1274）：第一回日本遠征（文永の役）
至元十六年（1279）：南宋を滅ぼし中国を統一
至元十八年（1281）：第二回日本遠征（弘安の役）
至正二十八年（1368）：元朝滅亡

安井教授：実は、昭和49年（1974）のことですが長崎県鷹島の神埼海岸で、モンゴル軍の遺物とおもわれる大型のパスパ文字の印鑑が発見されています。それから、平成8年（1996）のことですが福岡県福岡市の博多都市遺跡からパスパ文字が記された指輪や、先ほど見た「大元通宝」などが出土しています。江戸時代に出版された古銭の本には、パスパ文字銭が紹介されているものもあります。日本にあるパスパ文字関係の資料をまとめてみるのも、なかなか面白い仕事です。日本の主要な資料だけでも、どのような状況にあるか、誰かその概略を調べてくれると助かるのですが。佐藤さん、どうです、少しずつやってみては。

右は新聞社に配信された
ときの写真の模写。
天地が逆になっている。



博多遺跡群出土の指輪の模写

佐藤久美：できるかどうか分かりませんが、なかなか面白そうですね。ところで、パスパ文字の呼び方ですが、『元史』では「蒙古新字」とあり、「八思巴字」とはなっていません。どういうことでしょうか？

安井教授：当時は「蒙古字」とも「国字」とも言ったようです。パスパの作った文字という意味で「パスパ文字」と呼ばれるようになったのは、おそらくは近代以降でしょう。

なお、パスパはチベット文語（書き言葉）では'Phags-pa（聖なる）であり、これは現在のチベットのラサあたりでは「パクパ」のように発音されます。それで、「パスパ」ではなく「パクパ」と呼ぶ場合もあります。

パスパ文字の名称の変遷、'Phags-paの漢字音訳の問題、それに、「パスパ」とするか、それとも「パクパ」とするかという日本での名称の経緯など幾つか興味深い問題があります。とりあえず、私たちはパスパ文字と呼ぶことにしましょう。

佐藤久美：至元六年（一二六九）の詔（みことのり）の中に「およそ施用の文字は、漢字および畏吾字（ウイグル）を用い、よつて本朝の言語を表達しきたる。」とありますが、パスパ文字ができる前は漢字やウイグル文字を用いてモンゴル語を書いた、ということでしょうか？

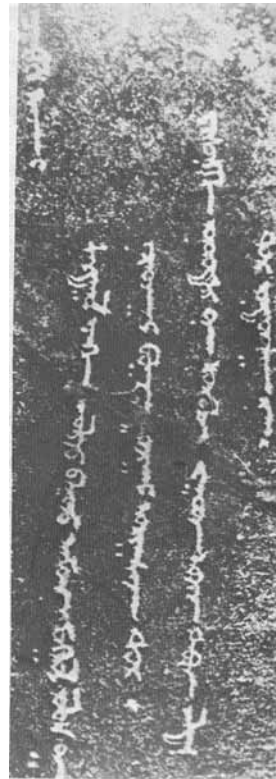
安井教授：先ず、漢字を用いてモンゴル語を表現したということについてですが、元代の資料に『至元訳語（蒙古訳語ともいう）』というものがあります。

これは漢字の音だけを利用して、つまり漢字を万葉仮名のように利用してモンゴル語の単語を書き記したものです。おそらくこのような資料は中国人のためのものと考えて良いのでしょう。それで、モンゴル人が漢字の発音を利用して自らの言葉を書き表すというようなことが「習慣として」あったかということ、そのようなことを明示する資料は見あたりません。ですから、「漢字を用いた」とは、漢字で書かれた中国語を用いて、自分たちの言いたいことを表現した、とふつうには考えられています。

他方のウイグル文字ですが、これは事情が異なります。ウイグル文字はラテン文字のような表音文字でして、これを用いてモンゴル語を書き記すことは、当時すでに習慣として定着していました。

次に挙げた資料は「チンギスカン碑文」と呼ばれているものです。左が写真で、右が拓本です。これはウイグル文字で書かれたモンゴル語の碑文です。いつ頃のものかハッキリしませんが、最も古く見積もった場合 1224 年となり、最古のモンゴル語碑文ということになります。縦に左から右に読み進むようになっていきます。単語などの意味の切れ目まで一続きに書かれます。ちょうど英語の筆記体を縦にして左の行から右の行にと読み進むようなものと考えてください。

このウイグル文字は、パスパ文字が公布された後も、実用の文字として盛んに使われました。元朝が滅びるとともにパスパ文字もほとんど滅んでしまったのですが、ウイグル文字のほうは現在に至るまで使われ続けています。



チンギスカン碑文と呼ばれているもの
『中国民族古文字図録』（中国社会科学出版社、1990年）による

佐藤久美：ウイグル文字という実用的な文字を持ちながら、ほかにパспа文字を作ったわけですね。ウイグル文字だけで十分であったような気がするのですが、どうしてわざわざ新たに文字を作ったのでしょうか？

安井教授：『元史』に「これを遼・金および遠方の諸国に考うるに、おおむね各国文字を有す。いま我が国の文治ようやく興り、しかも字書を缺くは、一代の制においてまことに不備なりとせり。」とあります。遼は契丹文字を、金は女真文字を、そして西夏は西夏文字という自前の文字を創製しています。

それで『元史』を額面通りに受け取れば、「フビライ汗はモンゴルも自前の文字を持つべきだと考えた」ということなのでしょうが、ウイグル文字で十分に実用的な用を果たしていたわけですから、どうして自前の文字を必要としたかが問題となりますね。

それはともかくとして、この研究室に契丹文字と西夏文字の貨幣がありますので、ちょっとながめてみましょう。

.....



契丹文字



西夏文字

山村健一：両方とも券囲気は漢字に似ていますね。

佐藤久美：安井先生、先ほどの話にもどりますが、そうしますと、パスパ文字は最初から実用を目指したものではなくて、モンゴル帝国の支配地域に大ハンの権威を知らしめるため、ということだったのでしょうか？

安井教授：最初から実用のことは考慮していなかった、とまで言い切れるかどうか分かりませんが、残された資料に抛る限り、実用的なものとして広く用いられたということはないようです。

文字を作ろうとした意図がどのあたりにあったか、こういったことは、あからさまには書かれないのが普通なのですが、遺物として現在に残されたパスパ文字の資料、各地に建てられた皇帝の碑文や通行手形や貨幣などがありますが、それらを見ると、漢字の世界の中であって、この異様な文字は十分にモンゴルの皇帝の権威を知らしめるのに役に立ったように思えます。

佐藤久美：ところで、『元史』に「一切の文字を訳写せしむ。」とありますが、一切の文字を訳写する、とはどういうことでしょうか？

安井教授：パスパ文字は、チベット仏教の僧パスパが、チベット文字を角ばらせてつくった文字です。やはりこれも表音文字で、アルファベットのような幾つかの文字のセットがあり、これによって様々な言葉を書き表すことができます。現在見ることのできる資料に、モンゴル語、中国語、トルコ語、サンスクリット語、チベット語があります。これら、残っている資料からみると、一切の文字を訳写するとは、パスパ文字を用いて支配下の諸民族の言葉を書き表すということでしょう。

そのまま実行されれば、結果として、文字表記においてモンゴル帝国が統一されるということになるわけです。

山村健一：変なことを言うようですが・・・よろしいでしょうか。

『元史』の記述によると、モンゴル帝国の人たちは新たに作った文字で様々な言葉を書き表そうと考えたわけですね。このような発想というのは一体どこからきたのでしょうか。或る文字が様々な民族に借用され、その結果、様々な言葉が一つの文字で書き表されたということはあるでしょうが、

パスパ文字の場合はそうではなくて、最初から複数の言葉を書き表すという意図のもとに文字を作り公布したということになります。これはよほどのことだろうとおもうのです。パスパ文字以外にこのようなことを聞いたことがないし、このように発想することは容易ではないと思うのです。うまく言えませんが、文字使用の伝統の浅かった草原の民の発想とは、僕にはどうしても思えないのですが。

それで、『元史』には「世祖は八思巴に蒙古新字の制作を命じた。」とあります。これは最終的な結果を書いたもので、実のところは、パスパの方から話をもちかけたのではないのでしょうか。パスパはチベット文字から作った新しい文字を帝国に普及させるとともにチベット仏教の進展を図ろうとした。それは、大ハンの權威をモンゴル帝国に知らしめようとしたフビライの利害とも一致したということではないのでしょうか。

安井教授：話としてはなかなかおもしろいですね。先ほど、パスパ文字で記された資料にはモンゴル語、中国語、トルコ語、サンスクリット語、チベット語があると言いましたが、実は大半はモンゴル語と中国語の資料です。ですから、「一切の文字を訳写せしむ。」といっても、実際にはモンゴル語と中国語を書き表したということになります。

それで、パスパ文字の資料中の一つに皇帝の聖旨（聖なる言葉）を石に彫ったものがあります。これには二種類あります。



①パスパ文字モンゴル語碑文

②パスパ文字中国語碑文

『北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編 048, 050』（中州古籍出版社、1990年）による

①は「パスパ文字で書かれたモンゴル語」で、これを上半分に書き、内容が対応した「漢字でかかれた中国語」が下半分に書かれます。

②は「パスパ文字で書かれた中国語」で、これを上半分に書き、全く同一表現の「漢字で書かれた中国語」が下半分に書かれます。

実用としては、①のタイプの碑文だけで充分だと思うのですが、実際には②のタイプもある。なぜこのような二種類の碑文が必要であったのか、解釈はいろいろ可能でしょうが、後者の「パスパ文字で書かれた中国語」はなかなか面白いと思うのです。

どの点が面白いかというと、こういったことです。当時、東アジアは圧倒的な漢字文化の圧力の中にあっただけです。それで、二つ目の「パスパ文字で書かれた中国語」は、漢字文化圏の中で、中国語をそっくりそのまま、漢字を使わずとも、モンゴルの文字だけで表記できるのだ、ということ。「見せ付けている」ように私にはみえるのです。パスパ文字は、漢字による中国語文のように縦に書かれますし、文字のまとめ方も漢字と同じで、漢字一字分の発音はパスパ文字でも一綴りで書かれます。字形は、というところ角張っており、この点も漢字と同じです。パスパ文字には、漢字に類似した雰囲気があり、当時使用されていた他の表音文字にくらべ、格別の威厳を備えているように見えます。漢字に代わり得る威厳を備えた文字で中国語を書き、それを天下に示すことほど、モンゴルの皇帝の力を知らしめる手段はない、と考えた人がいたのかもしれない。

ですから、パスパとその一派が、「モンゴル語はもちろんのこと、中国語も立派に書くことができますよ」と、フビライとその家臣団に耳打ちしたという話は、物語としてはなかなか面白い展開です。じつは唐の時代より、チベット文字だけを使って中国語を書いたり、漢字に振り仮名のようにチベット文字を振ったりすることは盛んにおこなわれています。そのような伝統を背景にして、何らかの発言をした可能性はありますね。

佐藤久美：モンゴルの人たちの帝国は西に広がっていたわけですが、西方の各ハン国でもパスパ文字は使われたのでしょうか。

安井教授：チャガタイ=ハン国の公文書にパスパ文字の印鑑を押したものがあります。これはパスパ文字で書かれたトルコ語の印鑑です。それ以外は知りません。

それから、各ハン国では貨幣を発行しているのですが、アラビア文字かウイグル文字で記されており、パスパ文字のものは一切ありません。ウイグル文字やアラビア文字が通行しているモンゴル帝国の西の方面に住む人々にとって、漢字に似たパスパ文字が何ほどの威力をもっていたかは不明です。

いずれにしても、パスパ文字という文字システムが「何故」「どのように」生み出され、展開し、そして滅んだかというような文字の興亡の歴史を明らかにすることはなかなか面白い仕事です。

今日はこれくらいにしておきましょう。

***** 3回目は次のページへ*****

— 3 回目 —

・・・金曜の午後。安井、お茶を入れる・・・

《学生さんの専門紹介》

安井教授：君たちは、一般教養の中国語中級の授業にでているわけですが、これで初級から数えて二年間中国語を勉強したことになりますね。だいぶ読めるようになったでしょう。

佐藤久美：辞書を引きながらでしたら、なんとか。

安井教授：パスパ文字を読むとき役に立つはずです。ところで、山村君はモンゴル語もやっているそうですね。

山村健一：モンゴル国からの留学生に個人レッスンを受けています。ですからロシア文字で書かれたモンゴル語は多少わかるのですが、中国国内の内蒙古のモンゴル文字で書かれたモンゴル語の方はどうも・・・。こちらは市販の教材で勉強を始めたところです。

安井教授：なかなか心強い。ところで、君たちの専門はなんでしたっけ・・・。佐藤さんは、たしか、歴史で、山村君は情報科学でしたね。山村君はパスパ文字の世界からだいぶ遠いところにいるようですが。

山村健一：いろいろな言葉の入門の語学が好きでして、その中の一つということでしょうか。語学は趣味の範囲なので、安井先生には申し訳ないのですが。

《パスパ文字の文字表》

佐藤久美：パスパ文字は表音文字で、アルファベットのような幾つかの文字のセットがあつて、これを使っていろんな言葉を書き表した、というお話ですが、どのような文字のセットがあるのでしょうか？

安井教授：今日は「パスパ文字の文字表」を用意してきましたので、それを見ながら話を進めましょう。

子音

1 𐰇 g	2 𐰏 k'	3 𐰓 k	4 𐰔 ŋ				
5 𐰕 d	6 𐰖 t'	7 𐰗 t	8 𐰘 n	9 𐰙 l			
10 𐰚 b	11 𐰛 p'	12 𐰜 p	13 𐰝 m	14 𐰞 f (𐰞 f1, 𐰞 f2)	15 𐰟 v		
16 𐰠 ĵ	17 𐰡 č'	18 𐰢 č	19 𐰣 ñ	20 𐰤 ś (𐰤 ś1, 𐰤 ś2)	21 𐰥 ž		
22 𐰦 j	23 𐰧 c'	24 𐰨 c	25 𐰩 s	26 𐰪 z			
27 𐰫 ·	28 𐰬 h (𐰬 h1, 𐰬 h2)	29 𐰭 γ	30 𐰮 y (𐰮 y1, 𐰮 y2)				
31 𐰯 '	32 𐰰 r	33 𐰱 q					

半母音

34 𐰲 ü	35 𐰳 ĭ
--------	--------

母音

36 **ᠮ**/**ᠮ**u 37 **ᠮ**or**ᠮ**/**ᠮ**or**ᠮ**o 38 **ᠨ**/**ᠨ**i 39 **ᠨ**or**ᠨ**/**ᠨ**or**ᠨ**é 40 **ᠬ** e

安井教授：いかがでしょうか。何か質問はありませんか？

〈中国語用の字母〉

佐藤久美：14番を見ますと**ᠮ** f (**ᠮ** f1, **ᠮ** f2) のようにありますが、()は何を意味するのでしょうか？

安井教授：括弧を付したものは、14**ᠮ** f (**ᠮ** f1, **ᠮ** f2)、20**ᠰ** s (**ᠰ** s1, **ᠰ** s2)、28**ᠬ** h (**ᠬ** h1, **ᠬ** h2)、30**ᠮ** y (**ᠮ** y1, **ᠮ** y2) です。全部で四組ですね。括弧の中の**ᠮ**f2、**ᠰ**s2、**ᠬ**h1、**ᠮ**y2は中国語専用の文字です。それぞれ、14**ᠮ**f、20**ᠰ**s、28**ᠬ**h、30**ᠮ**yをちょっと変形させて作ったものです。

それで、少しやっかいなのですが、中国語の資料でもこの両者を区別するものと区別しないものがあります。区別する場合は、**ᠮ**f1と**ᠮ**f2、**ᠰ**s1と**ᠰ**s2、**ᠬ**h1と**ᠬ**h2、**ᠮ**y1と**ᠮ**y2のように、数字の1と2を付して区別することにしました。区別のない場合は、**ᠮ**f、**ᠰ**s、**ᠬ**h、**ᠮ**yのように数字を付さないことにしました。

佐藤久美：数字の1が付くものと、2が付くものにはどのような違いがあるのでしょうか？

安井教授：数字の1とある方が濁音の系統で、2とある方が清音の系統ということになります。ですから、**ᠮ**f1は[v](ヴ)のような音で、**ᠮ**f2は[f](フ)のような音ということです。

〈三種の子音〉

山村健一：この表の1**ᠮ**g 2**ᠮ**k' 3**ᠮ**kや5**ᠮ**d 6**ᠮ**t' 7**ᠮ**t・・・などのローマ字を見ますと、1の**ᠮ**gと5の**ᠮ**dが濁音で、3の**ᠮ**kと7の**ᠮ**tが清音のように見えますのですが、そうすると、2と6は何でしょうか？

安井教授：文字をローマ字に置き換えることをローマ字に翻字すると言います。理屈の上では、互いに区別さえつければ、どんなローマ字に翻字してもいいのですが、ふつうは発音を髣髴とさせるものを用います。

それで、先ほど、パスパ文字はチベット仏教の僧パスパが、チベット文字を角ばらせてつくった文字だといいましたが、このローマ字のセットは何を想定したものかという、チベット文字の発音なのです。

これは、日本語とも、中国語とも違うので、ちょっと面倒なところもあります。まず、チベット語の発音には濁音(有声音)がありました。1**ᠮ**gや5**ᠮ**dなどです。日本語の濁音のようなものと考えてください。次に清音(無声音)がありました。ここからがやっかいです。清音には息の出方の強い清音(無声帯気音)と息の出方の弱い清音(無声無気音)とがありました。それで、息の出方の強い清音(無声帯気音)を2**ᠮ**k'や6**ᠮ**t'などで表わし、息の

出方の弱い清音（無声無気音）を3ᠠᠮkや7ᠪᠲtで表わします。つまり、「・」で強い息を表わすことにしたというわけです。

佐藤久美：当時のモンゴル語や中国語にも濁音の他に二種類の清音があったのでしょうか？

安井教授：山村君はモンゴル語の個人レッスンを受けているそうですが、現代のモンゴル語の発音はどうなっていますか？

山村健一：はい、濁音と清音の二種類です。

安井教授：濁音のほうを軟音、清音のほうを硬音などということがありますが、ここでは濁音と清音ということにして話を進めましょう。それで、元の時代のモンゴル語も濁音と清音の二種類であったようです。その発音とパスパ文字との対応をみると、次のようです。

モンゴル語音→	有声音	無声音	(借用語)
	1ᠠᠮ g	2ᠠᠮ k'	3ᠠᠮ k
	5ᠰ d	6ᠰ t'	7ᠪᠲ t
	10ᠪ b	11ᠪ p'	12ᠪ p
	16ᠵ ṣ	17ᠵ č'	18ᠵ č
	22ᠵ j	23ᠵ c'	24ᠵ c

モンゴル語の濁音（有声音）をチベット文字の濁音（有声音）に由来する文字で表記し、モンゴル語の清音（無声音）をチベット文字の清音（無声帯気音）に由来する文字で表記します。

それで、右端のチベット文字の清音（無声無気音）に由来する文字は、主に中国語などの外国からの借用語の表記に使用します。

佐藤久美：そうしますと、当時の中国語はどのようなものだったのでしょうか？

私たちが習っている現代の中国語は二種類の子音のようですが。

安井教授：佐藤さん、中国語の初級の頃、発音について何か注意されませんでしたか？

佐藤久美：はい、中国語の発音には日本語のような濁音はないということをいわれ、何度も練習させられました。

安井教授：そうですね。今の北京語の発音には、日本語のようなハッキリした濁音はありません。一つは日本語の清音を丁寧に発音したときの音に近いもので無声無気音ということになります。もうひとつは息をしっかりと出した清音で無声帯気音ということになります。日本語では二種類の清音の違いによって言葉の意味が異なることはありませんから、これを発音し分けるのはなかなか大変ですね。

佐藤久美：元の時代も二種類の清音だったのでしょうか？

安井教授：そこがなかなか難しい。中国の北方の方では現代北京語のように二種類の清音で発音する人たちが主流であったはずですが。ところが、南の方には、二種類の清音のほかに濁音をもっている人たちがいました。現在の上海や蘇州などという長江流域の地域では現在でも二種類の清音のほかに濁音もちゃんと

あります。こちらの方が昔からの伝統的な発音なのです。

それで、パスパ文字で書かれた中国語はどちらのタイプかといいますと、濁音と二種類の清音をもつ方、つまり三種の子音をもつということになります。

佐藤久美：そうしますと、チベット語と同じように中国語も表記されたというわけですね？

安井教授：それがまたヤッカイなことになっています。こんな風です。

中国語音→	無声無気音	無声帯気音	有声音
	1 ㄐ g	2 ㄒ k'	3 ㄎ k
	5 ㄌ d	6 ㄎ t'	7 ㄎ t
	10 ㄅ b	11 ㄆ p'	12 ㄆ p
	16 ㄐ j	17 ㄒ ç'	18 ㄎ ç
	22 ㄐ j	23 ㄒ c'	24 ㄎ c

佐藤久美：中国語とチベット語では無声無気音と有声音がひっくり返っているようですが。

安井教授：そのとおり。どうしてこんな風になっているのか、なかなか面白い議論があるのですが、ここではこれ以上の深入りはしないことにしましょう。

〈母音の表記〉

佐藤久美：「パスパ文字の文字表」の最後を見ますと、母音が次のようにあります。

36 ㄅ/ㄅ u 37 ㄐorㄐ/ㄐorㄐ o 38 ㄎ/ㄎ i 39 ㄎorㄎ/ㄎorㄎ ê 40 ㄎ e
スラッシュ (/) の前と後は字形が違います。前の文字の上には横線があり、後ろの文字にはありませんが、これはどのような発音の違いを表わしているのでしょうか？

安井教授：これは発音の違いを表わすものではありません。それぞれの母音の前に他の子音が付かない場合には、ㄅ、ㄐorㄐ、ㄎ、ㄎorㄎのように、最初に横線が必要です。それで、母音の前に何か子音が付く場合、これはどんな子音でもいいのですが、とにかく前に子音が付く場合は、ㄅ、ㄐorㄐ、ㄎ、ㄎorㄎのように、最初の横線は不要です。

このように、母音で始まる場合、最初に横線が必要だというのはウイグル文字も同じであり、その影響によるものです。

佐藤久美：よくわかりました。それで、この「パスパ文字の文字表」ですが、この表中の文字だけで、モンゴル語や中国語以外の言葉も表記できるのでしょうか？

安井教授：ほかにサンスクリット語やチベット語を表記する専用の字母が幾つかあります。それについては、後でそれぞれの言葉を記した資料を見ますので、その時に確認しましょう。パスパ文字一つ一つが表わす音の特徴についてもそこでやりましょう。

それから、ここにパスパ文字モンゴル語の研究書 (Poppe, N. 1957, *The*

Mongolian Monuments in Hp'ags-pa Script, Second Edition translated and edited by J.R.Krueger, Wiesbaden) があります。これはアルタイ語の学者ニコラス・ニコライ・ポッペという方が書いたもので、パスパ文字研究の出発点ともなるものです。最初に概説と文字の説明があります。その部分だけでもいいですから目を通しておいってください。

今日はこのくらいにして、また来週お会いしましょう。

***** 4回目は次のページへ*****

《パスパ文字の綴り方》

佐藤久美：前は「パスパ文字の文字表」を勉強しました。今回はパスパ文字をどうやって綴り合わせるか、ということですね。

安井教授：まずは次の表を見てください。これは chin(チン),chun(チュン),chen(チェン),chon(チョン),chan(チャン)というような発音が仮にあったとして、これをチベット文字、パスパ文字、ウイグル文字でどの様に綴るかを試しに書いたものです。一段目はローマ字で綴った発音です。二段目はチベット文字、三段目はパスパ文字、四段目はウイグル文字です。

		chin	chun	chen	chon	chan
チベット文字	$\left. \begin{matrix} \text{ch} \\ \text{ch} \\ \text{ch} \\ \text{ch} \\ \text{ch} \\ \text{ch} \end{matrix} \right\}$	ཆིན་	ཆུན་	ཆེན་	ཆོན་	ཆཤན་
パスパ文字	$\left. \begin{matrix} \text{ch} \\ \text{ch} \\ \text{ch} \\ \text{ch} \\ \text{ch} \\ \text{ch} \end{matrix} \right\}$	𑖇𑖆𑖅	𑖇𑖆𑖅	𑖇𑖆𑖅	𑖇𑖆𑖅	𑖇𑖆𑖅
ウイグル文字	$\left. \begin{matrix} \text{ch} \\ \text{ch} \\ \text{ch} \\ \text{ch} \\ \text{ch} \\ \text{ch} \end{matrix} \right\}$	چين	چۈن	چەن	چون	چان

〈チベット文字：音節毎の分かち書き〉

安井教授：チベット文字の綴りをみて何か気がつきませんか。

山村健一：チベット文字は ch に当たる ཆ の上下に i,u,e,o を書いて、その右隣に n を置いているようですが……。それから、それぞれの右肩に小さな点のようなマークがあります。これは何でしょうか？

安井教授：これはチベット文字の綴り方にとって大切なものです。これで音節の区切りを表します。チベット文字で綴られた文は、1音節ごとに分かち書きすることになっています。

佐藤久美：すみません。その「オンセツ」というのはどういうもののでしょうか？

安井教授：山村君、説明してあげてください。

山村健一：はい。言語学でどのように説明するか知らないけれど、一つの「音節」というのは、日本語でいえばカ (ka) キ (ki) ク (ku) などカタカナの一文字やキャ (kya) キュ (kyu) キョ (kyo) などの小さな文字を含んだ二文字になる。中国語の場合、中 (zhong) 国 (guo) などのように、一つの主母音を中心にその前後に幾つの子音や副母音がついたもので、これは漢字一つの

発音に相当する。

要するに、一つの母音の前後に幾つかの子音や副母音が連なった発音の単位のことかな。もっとも、母音だけの場合もあるけれども。

安井教授：言語学として定義する場合にはいろいろ難しい議論もありますが、我々にとっては今の説明で十分です。

それから先ほど「チベット文字で綴られた文は1音節ごとに分かち書きされる」と言いました。どういうことかと言いますと、日本語の「柿の種」をラテン文字で「ka ki no ta ne」と分かち書きするようなものです。チベット文字の場合、右肩に点を書いて1音節の区切りを表します。このように、文字が音節単位に綴られるというのが特徴の一つ目です。

〈チベット文字：母音 a の補写〉

佐藤久美：音節の意味は分かりました。チベット文字が音節毎に綴られるということも分かりました。ところで、最後の **chan** を見ますと母音の **a** が書かれていないようですが、これはどういうことでしょうか？

安井教授：チベット文字には母音の **a** を書き表す専用の文字がありません。子音と半母音の後に **i,u,e,o** という母音がない場合、そこに母音の **a** があると見なします。これは特徴の二つ目です。

山村健一：そうしますと、子音の **ch** と **n** が並んでいる場合、1音節毎に綴られるので、**chana** というのは無いとしても、**chan** なのか **chna** なのか分からないとおもうのですが。

安井教授：そのとおりです。中国語の場合、{子音+子音+母音} というようなタイプの二重子音の音節がないので、子音の **ch** と **n** が並んでいるときは必ず **chan** となります。ところが、チベット語を綴る場合には二重子音がありますので、**chan** なのか **chna** なのか検討しなければならないということになります。もっとも、チベット語といえども、{**ch+n**+母音} という音節はありませんので、**ch** と **n** が並んでいるときは、やはり **chan** のように母音を補うことになります。

山村健一：それぞれの言葉の音節構造の特徴を知っていて、それではじめて適切に母音の **a** を補うことができるというわけですね？

安井教授：そういうわけです。

〈チベット文字：綴りの方向〉

佐藤久美：文字を綴っていく方向ですが、チベット文字は左から右のように見えるのですがそれで良いのでしょうか？

安井教授：先ほどの表では音節だけを示したので、ちょっと分かりにくいかもしれませんが、佐藤さんの見立ての通り、チベット文字は左から右に綴っていきます。書記の方向は、ラテン文字で英語を綴っていくのと同じです。これがチベット文字の綴り方の三つ目の特徴ということになります。

〈パスパ文字の場合：音節毎の分かち書き〉

安井教授：三段目のパスパ文字の綴りを見てください。パスパ文字はチベット文字を角張らせて作ったものだということが良くわかります。綴り方も、チベット文字の三つの特徴のうち二つまで受け継いでいます。

一つ目は音節毎に分かち書きされるという点です。チベット文字のように音節の切れ目を示す点はありませんが、その代わりに1音節は続けて書かれます。英語の筆記体のように連書されると思ってください。この点は四段目のウイグル文字と同じです。このような、文字を連書する法は、ウイグル文字を真似たものです。

ただし、パスパ文字が連書されるのは1音節のみです。ウイグル文字にはこの制限がありません。2音節でも3音節でも連書されます。単語など意味の切れ目がある所まで連書されます。この点は、ウイグル文字と、パスパ文字・チベット文字との大きな違いです。

〈パスパ文字の場合：母音 a の補写〉

安井教授：二つ目は母音の a の問題です。チベット文字のように a を表す専用の文字がありません。子音と半母音の後に他の母音が無い場合 a を補います。ですから g や gŭ や gĭ が書かれている場合は、ga, gŭa, gĭa というように a を補うこととなります。

以上の二つ、つまり1音節毎に分かち書きされるという点、母音 a が書かれないという点は、パスパ文字がチベット文字から引き継いだ綴り方の特徴です。

〈パスパ文字の場合：綴りの方向〉

佐藤久美：綴りの方向はチベット文字と違いますね。チベット文字は左から右に進みますが、パスパ文字の場合は上から下に文字を続けていくようです。

安井教授：はい。パスパ文字の綴りの方向は、第四段目のウイグル文字と同じです。ウイグル文字の影響を受けているわけですね。

縦に書かれる点は、一見漢字の中国語と同じように見えますが、行は左から右に読み進むようになっており、中国語とは逆です。この点もウイグル文字の綴り方の影響です。

山村健一：要するに、字形、音節毎の分かち書き、母音 a に専用字がないこと、この三点はチベット文字を受け継ぎ、文字の連書の法と綴りの方向はウイグル文字を受け継いだということですね？

安井教授：そのとおりです。

〈ウイグル文字とパスパ文字〉

安井教授：佐藤さん、ウイグル文字とパスパ文字を見比べて何か気づきませんか。

佐藤久美：パスパ文字で区別される母音の u と o、それに e と a ですが、ウイグル文字では形が同じようにみえますが・・・。

安井教授：ウイグル文字では母音の u と o、e と a を区別しません。母音だけでなく、じつは子音の t と d、k と g などの区別もありません。

佐藤久美：そうしますと、当時のモンゴルの人たちは、ふだんはウイグル文字でモンゴル語を書いていたというお話でしたが、発音を区別しない文字で綴ることで何か問題はおきないのでしょうか？ パスパ文字のほうが正確で良いようにおもうのですが。

安井教授：問題は起きないようです。言葉を知っている人にとって、文字は単語を暗示してくれるだけで十分です。詳しすぎる区別はかえって面倒なだけ、ということなのでしょうね。ですから、初めてその言葉を学ぶということでない限り、パスパ文字の表音が正確だから使いやすいということにはなりません。

今日はこのくらいにしてまた次回集まりましょう。次回は実例を読んでみましょう。

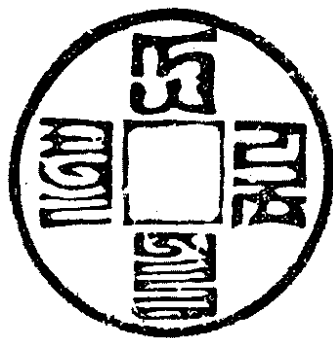
***** 5回目は次のページへ*****

— 5 回目 —

安井教授：皆さんこれで5回目ですね。そろそろパスパ文字の入門に区切りをつけましょう。パスパ文字で書かれた実物資料を読んでみることにします。

佐藤久美：これは、先生が食堂に置き忘れた貨幣ですね。

山村健一：たしか「大元通宝」と書いてあるというお話でした。そうしますと、これはパスパ文字で元代の中国語を書いた資料ということになりますね。どういう順番で読むのでしょうか？



安井教授：上が「大」、下が「元」、左が「通」、右が「宝」です。皆さん、以前お配りしたパスパ文字の文字表をみながら、パスパ文字をローマ字に直してみてください。このような作業を「ローマ字に翻字する」といいます。

..... 作業

安井教授：佐藤さん。黒板にパスパ文字とローマ字翻字を書いてみてください。

佐藤久美：はい。なかなか楽しい作業ですね。

7	𐄂	t	
30	𐄃	y	→ty
31	𐄄	'	
34	𐄅	ü	
40	𐄆	e	
8	𐄇	n	→'üen
6	𐄈	t'	
36	𐄉	u	
4	𐄊	ŋ	→t'uj
10	𐄋	b	
15	𐄌	v	→bv

安井教授：山村君、母音の a を補って横に続けて書いてみてください。

山村健一：はい。

tay 'üen t'uj bav

これでよろしいでしょうか？

安井教授：翻字の場合、音節と音節の切れ目をハイフン「-」で示すようになっていま
す。ですから、これからは

tay-'üen-t'uj-bav

と翻字するようにしましょう。

佐藤久美：わたしたちはこれが中国語の「tay（大）-'üen（元）-t'uj（通）-bav
（宝）」だと知っていますが、ローマ字の翻字から、どうしたら「大元通
宝」と読むことができるのでしょうか？

安井教授：そこが文字研究の醍醐味です。古代文字の解読という部分になります。

山村健一：まずは、「tay-'üen-t'uj-bav」が何語かということが問題となりますね。中
国語なのか、モンゴル語なのか、チベット語なのか、それとも他の言語なの
か。こういったことはどうして分かるのでしょうか？

安井教授：ほとんどの資料は、資料の置かれた状況や文字の配列などにより、それほ
ど苦勞せず、何語であるか分かる、というのが実情です。ただし、欠落した
部分があるような短い資料ですと、情報もすくないので、何語か判断できな
いという場合もあります。

この「大元通宝」。これを最初に読んだ人が誰であるかというようなこと
は知りませんが、文字の続き具合から直感的に中国語と判断し、作業をした
のでしょ。

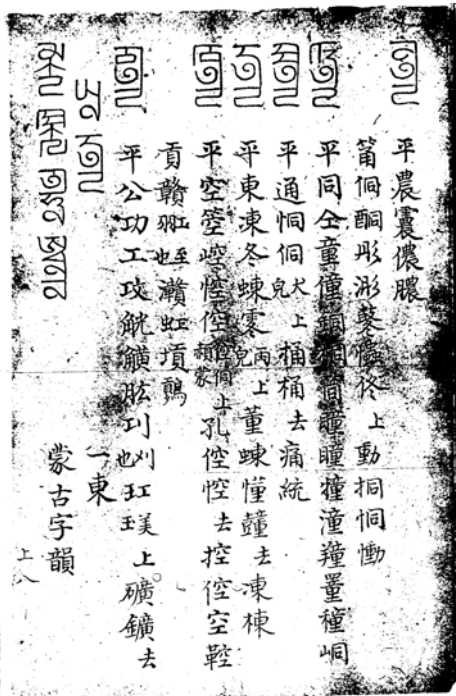
山村健一：中国語だと分かったとして、その次はどうしたら良いのでしょうか？
それぞれのローマ字に適切な漢字を当てはめていくことにはなりますが、どう
やって漢字を選んだら良いのでしょうか？

安井教授：ローマ字を漢字に置き換える作業を
するための手引書のようなものが必要
になりますね。これは当時の人たちに
とっても同じことです。「大元通宝」
をパスパ文字で書きたいときに手引き
が必要であったはずですよ。

そのような手引書として『蒙古字
韻』という本が残っています。山村く
ん、書棚のそこにありますので取っ
てください。

山村健一：これを見ますと、パスパ文字の綴り
の下に漢字が並んでいます。下に並ん
でいる漢字は、みな上のパスパ文字で
綴られる、ということでしょうか？

安井教授：そういうことです。たとえば、左か
ら三行目を見てください。最上部にパ
スパ文字がありその下に漢字が続きま



す。

guŋ 平公巧工・・・・上礦鑛 去貢・・・・

「平」、「上」、「去」というのは昔の声調の枠組みです。じつはこの三つの他に「入」というものがあり、声調の枠組みは全部で四つとなります。これは guŋの発音と直接の関係はありません。それで、「公」以下も、「礦」以下も、「貢」以下も、すべてパスパ文字で guŋと書く、といことを示した手引書なのです。

最初の子音を除いた部分、つまり uŋですね、この部分を韻母（イボ）と言いますが、韻母の似ているものはそれぞれ一まとめに置かれています。ですから、韻母の形の似ているページを開いて、目的の字を探すということになります。

それから、韻母の似ているものを一まとめにして置いてあると言いましたが、その一まとめの中は、さらに最初の子音、これを声母（セボ）と言いますが、声母の順に並んでいます。この声母の順番も一定していますので、字を探す場合参考になります。

山村健一：そうしますと、「tay-’üen-t’uŋ-bav」の「tay」という綴りの漢字としてどんなものがあるかを調べたいときは、『蒙古字韻』の「ay」を集めた部分を開くと漢字の候補が出てくるといわけですね？

安井教授：そのとおりです。『蒙古字韻』の「tay」の下を見ますと、「臺大代・・・・」など 26 字が並んでいます。同じように、「’üen」と「t’uŋ」と「bav」の下にも漢字の候補が並んでいます。それで、ここからは皆さんの知識を総動員し、漢字の候補を見比べながら、「大元通宝」と読み解いていく、ということになるわけです。

佐藤久美：『蒙古字韻』に無い漢字についてはどうしたら良いのでしょうか？たとえば、現代中国語で「公」と「缸」は同じ発音ですが、先ほどのパスパ文字 guŋの下に「公」はありますが、「缸」はありません。

安井教授：佐藤さんが挙げた「公」と「缸」は偶然に当時でも発音が同じでした。ですから「公」に当てられたパスパ文字を「缸」にも使えば良いということになります。どの字とどの字の発音が同じであったかということについては、当時の他の発音辞典で調べるということになります。

山村健一：要するに、『蒙古字韻』に登録された文字と同じ発音の部類にはいるものなら、『蒙古字韻』に無くとも、『蒙古字韻』のパスパ文字の綴りを利用できるということですね。

安井教授：そういうことです。これでパスパ文字の仕組み、解読の仕方について大まかなところは理解できたはずです。

中国語、モンゴル語、チベット語、チュルク語、サンスクリット語などをパスパ文字で書いた資料があります。それぞれの言語によって、パスパ文字を利用するルールが少しずつ違ってきますので、あとは、実際の資料によ

って、細かい点を見ていくということになります。

．．．．．お茶を飲みながら．．．．．

佐藤久美：そうしますと、いよいよ次回からは、いろんな資料を読んでみるということになるのでしょうか？

安井教授：申し訳ありません。来週から海外に出張しますので、しばらくはお休みということにさせていただきます。また始めるときには連絡します。

佐藤・山村：それではまた。

***** 5回に渡ってお疲れ様でした*****

以上、この項目は吉池孝一が担当しました。